

平成21年青森県登録販売者試験について

1 概要

出願者 710名

受験者 697名

合格者 324名 合格率 46.5% (四捨五入)

2 合格基準

総得点の7割であって、かつ、各項目の得点が4割以上

3 試験成績

	手引き第1章 (20点)	手引き第2章 (20点)	手引き第3章 (40点)	手引き第4章 (20点)	手引き第5章 (20点)	総得点 (120点)
最高得点	20	19	39	19	20	115
最低得点	5	4	7	3	5	35
平均点	16.5	14.5	21.3	12.9	15.4	80.6

※平均点は小数点第1位を四捨五入

注意事項

(1) 得点の閲覧

得点の閲覧を希望する方は、受験票及び身分を確認できるもの（運転免許証等）を持参し、青森県庁北棟6階の医療薬務課へお越しくください。（地下に駐車場あり。）

閲覧受付期間

平成21年3月4日（水）～ 4月3日（金） 午前9時～午後5時

（ただし、土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日を除く。）

(2) 受験票

不合格者のうち、次回の登録販売者試験を受験する方については、受験票をもって添付書類に代えることを認めますので、紛失しないでください。

紛失した場合は、通常どおり添付書類が必要となります。

(3) 合格通知書

合格通知書の発送は、3月上旬となります。

(4) 登録申請受付開始予定

登録申請の受付は本年4月1日からを予定しています。

4 正解

問60については、不適切問題として取扱い、全員に加点しました。

問	正解
問1	2
問2	1
問3	1
問4	4
問5	4
問6	2
問7	3
問8	2
問9	3
問10	4
問11	4
問12	3
問13	3
問14	1
問15	3
問16	2
問17	5
問18	3
問19	4
問20	3

問	正解
問41	4
問42	1
問43	5
問44	1
問45	5
問46	2
問47	1
問48	2
問49	3
問50	3
問51	2
問52	1
問53	4
問54	3
問55	4
問56	1
問57	3
問58	3
問59	2
問60	全員加点

問	正解
問81	4
問82	1
問83	2
問84	2
問85	4
問86	3
問87	1
問88	2
問89	5
問90	3
問91	4
問92	2
問93	5
問94	2
問95	1
問96	4
問97	4
問98	1
問99	2
問100	2

問	正解
問21	3
問22	4
問23	1
問24	2
問25	5
問26	3
問27	4
問28	2
問29	5
問30	3
問31	2
問32	5
問33	4
問34	1
問35	1
問36	2
問37	4
問38	5

問	正解
問61	3
問62	3
問63	2
問64	4
問65	4
問66	2
問67	4
問68	2
問69	1
問70	4
問71	2
問72	1
問73	4
問74	1
問75	5
問76	4
問77	1
問78	3

問	正解
問101	2
問102	3
問103	1
問104	1
問105	2
問106	4
問107	1
問108	1
問109	4
問110	3
問111	1
問112	2
問113	2
問114	4
問115	1
問116	1
問117	4
問118	4

5 不適切問題について

問60

正解なし（当初予定していた正解は4）

「尿糖」とすべきところ「尿等」としてしまったため。

【問1】

医薬品の本質に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品である。
- b 医療用医薬品は、一般用医薬品と比較して、保健衛生上のリスクは相対的に低いと考えられる。
- c 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報を伴わなければ、単なる薬物にすぎない。
- d 医薬品が人体に及ぼす作用は、全て解明されている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問2】

医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- b 薬事法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物の混入、変質等がなくてはならないと規定している。
- c 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、常に医薬品に対する新しい情報の把握に努める必要がある。
- d 一般用医薬品は、添付文書や製品表示に必要な情報が記載されているため、その販売に際し専門家による情報提供は行わなくともよい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問3】

医薬品の副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬物が、生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- b 医薬品を十分に注意して適正に使用した場合であっても、副作用が生じることがある。
- c アレルギーは、一般的にあらゆる物質によって起こりうる。
- d アレルゲンとなりえる医薬品の添加物としては、黄色4号（タートラジン）、カゼイン、亜硫酸塩等が知られている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問4】

第1欄の記述はアレルギーに関するものである。（ ）の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

塩化リゾチームは、（ ）アレルギーの既往歴がある人では使用を避ける必要がある。

第2欄

- 1 乳 2 小麦 3 でんぷん 4 鶏卵 5 ゼラチン

【問5】

一般用医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 効果が緩和なので、過量に摂取しても急性中毒が生じる危険性はない。
- 2 習慣性、依存性がある成分が含まれているものはない。
- 3 一般的に風邪等の症状がひどいときは、適正使用量より多めに服用した方がよい。
- 4 乱用の繰り返しによって、慢性的な臓器障害等を生じるおそれがある。

【問6】

食品と医薬品の相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 食品と医薬品の相互作用は軽微なものが多いことから、その医薬品と相互作用を生じるおそれのある食品の摂取を制限する必要はない。
- 2 食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在することがあるために、それらを含む医薬品と食品を一緒に服用すると過剰摂取となるものもある。
- 3 保健機能食品は、医薬品との相互作用は起こさない。
- 4 アルコールは主として肝臓で代謝されるため、酒類をよく摂取する人では、肝臓の代謝機能が低下していることが多い。

【問7】

医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- b 生薬成分については、医薬品的な^{ぼう}効能効果が標榜又は暗示されていなければ、食品として流通可能なものがあり、そうした食品を合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- c 緩和を図りたい症状が明確な場合でも、その後の新たな症状発現のリスクを減らす観点から、なるべく幅広い症状に対応できるように、さまざまな成分が配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- d 医療機関で治療を受けている場合は、一般用医薬品を併用しても問題ないかどうか、医師等に確認する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問8】

医薬品の相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品では、一つの医薬品の中に作用の異なる複数の成分が配合されていることは少ない。
- 2 アレルギー用薬とかぜ薬では、成分や作用が重複することが多い。
- 3 通常、同じ薬効成分が重複しなければ、相互作用は起こらない。
- 4 相互作用では、医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。

【問9】

小児の医薬品使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般的に小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の作用は減弱する。
- b 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が長いため、服用した医薬品の吸収率が高い。
- c 乳児では、循環血液中に移行した医薬品の成分が血液脳関門により防御されるため、中枢神経系の副作用は起こりにくい。
- d 乳児において、塩化リゾチームを初めて摂取したときに、アナフィラキシーが現れたとの報告があるため、乳児に服用させた後はしばらくの間、容態を観察することが重要である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問10】

小児の医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するには、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目に付く場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。
- b 乳児は状態が急変しやすく、一般用医薬品の使用の適否が見極めにくいいため、一般用医薬品による対処は最小限にとどめることが望ましい。
- c 医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため、小児に対して使用しないことなどの注意を促しているものもある。
- d 成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は避けるべきである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	誤	正

【問11】

高齢者の医薬品使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意等において高齢者という場合には、おおよその目安として75歳以上を指す。
- b 高齢者は、基礎体力や生理機能に個人差はあるが、使用についてはその年齢で一律に判断し情報提供や相談対応を行うことで差し支えない。
- c 高齢者にかぜ薬を販売する場合、基礎疾患がなく日頃健康な身体状態が保たれていれば、通常の成人と同様の対応で問題ない。
- d 高齢者は、嚥下障害を持つ場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問12】

高齢者の医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高齢者は基礎疾患を抱えていることが多く、医師などから薬を処方されている場合もあるが、一般用医薬品を併用しても、用法用量どおりに使用していれば、基礎疾患の症状悪化や治療の妨げになることはない。
- b 高齢者では、医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすい傾向があり、家族や周囲の人の理解や協力も含め、医薬品の安全使用の観点からの配慮が重要となることがある。
- c 一般用医薬品の用法用量は、使用する人の生理機能の個人差をある程度見込んで設定しているので、高齢者であっても基本的には定められた用量の範囲内で使用されることが望ましい。
- d 高齢者は、医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合等があるので、情報提供や相談対応においては特段の配慮が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問13】

妊婦及び妊娠していると思われる女性に対する医薬品の使用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胎盤には、胎盤関門があり医薬品成分の胎児への移行が防御されるため、母体が医薬品を使用しても胎児には影響がない。
- b ブロムワレリル尿素を含む一般用医薬品は、胎児障害の可能性があるので使用を避けることが望ましい。
- c 妊婦は、体の変調や不調を起こしやすいが、軽い不調であれば一般用医薬品で症状を緩和することが望ましい。
- d 便秘薬には、その配合成分や用量によっては、流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問14】

薬事法第25条で規定される一般用医薬品の定義について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が(a)のものであって、(b)その他の医薬関係者から提供された情報に基づく(c)の選択により使用されることが目的とされているもの。

	a	b	c
1	著しくない	薬剤師	需要者
2	緩やかな	薬剤師	販売者
3	緩やかな	薬剤師	需要者
4	著しくない	医師	販売者
5	緩やかな	医師	需要者

【問15】

医療機関で治療を受けている人の一般用医薬品の使用に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、薬局で交付された薬剤を使用している人への一般用医薬品との併用の可否を判断することが義務付けられている。
- b インターフェロン製剤で治療を受けている人が小柴胡湯しょうさいこうとうが配合されたかぜ薬を使用した場合、間質性肺炎が現れるおそれがある。
- c 生活習慣病等の人が一般用医薬品を使用することによって、その症状が悪化したり治療が妨げられることはない。
- d 腎臓病の治療を受けている人がアスピリンを使用した場合、むくみ等の症状が現れ腎臓病を悪化させるおそれがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問16】

医薬品の品質に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 適切な保管・陳列をすれば、品質の劣化は起こらない。
- 2 使用期限は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- 3 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されているので、保管温度の管理は不要である。
- 4 医薬品に配合されている成分には、光(紫外線)による変質や変敗が起こるものはない。

【問17】

医薬品の販売時に購入者から確認しておきたい事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用するのは情報提供を受けている当人か、又はその家族等が想定されるか。
- b その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- c その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。
- d その医薬品がすぐに使用される状況にあるか。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

【問18】

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟は、血液製剤の投与を受けたことによりCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b CJDはウイルスの一種であるプリオンが原因とされる。
- c CJDはプリオンが脳の組織に感染し、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。麻痺は上半身にも広がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。
- d CJD訴訟を契機として、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤

【問19】

サリドマイドに関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

サリドマイド訴訟は、(a)等として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の(b)が発生したことに対する損害賠償訴訟である。サリドマイドは、副作用として血管新生を(c)作用がある。

	a	b	c
1	催眠鎮静剤	サリドマイド胎芽症	促す
2	貧血用薬	サリドマイド欠損症	促す
3	貧血用薬	サリドマイド欠損症	妨げる
4	催眠鎮静剤	サリドマイド胎芽症	妨げる
5	催眠鎮静剤	サリドマイド欠損症	妨げる

【問20】

薬害に関する以下の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、治療上の効能・効果とともに何らかの有害な作用等が生じることがあるが、生物由来医薬品では副作用は起こりにくく、現在までそれが原因となった訴訟は起こっていない。
- b サリドマイド製剤のなかには一般用医薬品として販売されていた製品もある。
- c スモン訴訟は、スモン製剤を使用したことによる薬害事件である。
- d 過去に起こった主な薬害訴訟は、サリドマイド訴訟、スモン訴訟、HIV訴訟、CJD訴訟の順で和解が成立した。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問21】

抗炎症成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ブロメラインは、蛋白質分解酵素で、体内で産生される炎症物質を分解する作用を示す。
- b トラネキサム酸は、体内で炎症物質の産生を抑えることで炎症の発生を抑え、腫れを和らげると考えられている。また、凝固した血液が分解されにくくする働きもある。
- c グリチルリチン酸は、化学構造がステロイド性抗炎症成分と類似していることから、抗炎症作用を示すと考えられている。
- d グリチルリチン酸を大量に摂取すると低ナトリウム血症に伴う、偽アルドステロン症を生ずるおそれがあり、使用する前にその適否を十分考慮するなど、慎重な使用がなされる必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

【問22】

体力が衰えたときのかぜのひき始めに適すとされる漢方処方製剤はどれか。

- 1 葛根湯 かつこんとう
- 2 小柴胡湯 しょうさいことう
- 3 麻黄湯 まおうとう
- 4 桂枝湯 けいしとう
- 5 小青竜湯 しょうせいりゅうとう

【問23】

次の表はあるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

3包中	
イブプロフェン	450mg
グアヤコールスルホン酸カリウム	250mg
d-マレイン酸クロルフェニラミン	3.5mg
無水カフェイン	75mg
ヒベンズ酸チペピジン	75mg
リボフラビン	12mg
d1-塩酸メチルエフェドリン	60mg
アスコルビン酸カルシウム	500mg

このかぜ薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a イブプロフェン ————— 頭痛、咽頭痛^{いん}を鎮める
- b d-マレイン酸クロルフェニラミン —— 鼻汁分泌やくしゃみを抑える
- c ヒベンズ酸チペピジン ————— 鼻粘膜や喉^{のど}の炎症による腫れ^はを和らげる
- d リボフラビン ————— 鼻粘膜や喉^{のど}の炎症による腫れ^はを和らげる

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問24】

かぜ薬に配合される主な成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェンヒドラミンが配合された内服薬を服用した後は、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
- b トラネキサム酸は、フィブリノゲンやフィブリンを分解する作用もあり、出血傾向の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある。
- c リン酸ジヒドロコデインは、副作用として便秘が現れることがある。
- d 塩化リゾチームは、心臓病、腎臓病又は高血圧の診断を受けた人では、偽アルドステロン症を生じるリスクが高い。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問25】

かぜ薬に配合される成分で、まれに重篤な副作用として、無菌性髄膜炎を生じることがある成分はどれか。

- 1 葛根湯
- 2 アセトアミノフェン
- 3 アスピリン
- 4 イソプロピルアンチピリン
- 5 イブプロフェン

【問26】

かぜ薬に配合される主な成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アスピリンは、現在、一般用医薬品で唯一のピリン系解熱鎮痛成分である。
- b アスピリン、サザピリンは、一般用医薬品では、小児に対しては、いかなる場合も使用しない。
- c エテンザミド、サリチルアミドは、一般用医薬品では、小児で水痘又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要がある。
- d アセトアミノフェンは、非ピリン系の解熱鎮痛成分で、一般用医薬品では、小児向けの製品はない。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問27】

次の表は筋肉の異常緊張、けいれん、疼痛を伴う、肩こり・腰痛・筋肉痛等を効能とする一般用医薬品に含まれている成分の一覧である。

2錠中	
メトカルバモール	500mg
エテンザミド	300mg
無水カフェイン	30mg
酢酸トコフェロール	30mg
ジベンゾイルチアミン	8mg

この薬に含まれる成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a メトカルバモールは、非ピリン系の解熱鎮痛成分で、痛みを和らげる。
- b エテンザミドは、中枢神経系の刺激反射を抑え、いわゆる「筋肉のこり」を和らげる。
- c 無水カフェインは、解熱鎮痛成分の鎮痛作用を高める効果を期待して配合されている。
- d ジベンゾイルチアミンは、神経痛、筋肉痛・関節痛などの症状の緩和に用いられている。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問28】

鎮^{うん}暈薬の成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 臭化水素酸スコポラミンは、肝臓での代謝が早く、抗ヒスタミン成分と比べ持続時間は短い。
- b 塩酸メクリジンは、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く、持続時間は短い。
- c 塩酸ジフェニドールは内耳にある前庭神経の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示し、抗ヒスタミン成分としてよりも専ら抗めまい成分として使用される。
- d ジメンヒドリナートは、テオクル酸ジフェンヒドラミンの一般名で、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗コリン成分である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問29】

鎮暈薬に配合される主な成分で、外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、小児では使用を避ける必要がある成分はどれか。

- 1 サリチル酸ジフェンヒドラミン
- 2 塩酸メクリジン
- 3 マレイン酸クロルフェニラミン
- 4 臭化水素酸スコポラミン
- 5 テオクル酸プロメタジン

【問30】

次の表はある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

1包中	
スクラルファート	500mg
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	500mg
ロートエキス	10mg
ソウジュツ乾燥エキス	20mg

この胃腸薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a スクラルファート ————— 過剰な胃液の分泌を抑える
- b メタケイ酸アルミン酸マグネシウム —— 中和反応によって胃酸の働きを弱める
- c ロートエキス ————— 過剰な胃液の分泌を抑える
- d ソウジュツ乾燥エキス ————— 胃粘膜の炎症を和らげる

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問31】

次の表はある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

3包中	
合成ヒドロタルサイト	1500mg
カンゾウ末	150mg
アルジオキサ	90mg
ウイキョウ末	90mg
ウルソデオキシコール酸	30mg
ケイヒ末	150mg
ビオチンアスターゼ1000	120mg
ショウキョウ末	90mg
ロートエキス3倍散	90mg

この胃腸薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 合成ヒドロタルサイト ————— 中和反応によって胃酸の働きを弱める
- b アルジオキサ ————— 過剰な胃液の分泌を抑える
- c ウルソデオキシコール酸 ————— 胆汁の分泌を促し、消化を助ける
- d カンゾウ末 ————— 味覚や嗅覚を刺激して反射的な唾液や胃液の分泌を促す

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問32】

胃の薬の成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 胃液分泌抑制成分として、塩化カルニチン、ロートエキスが配合される場合がある。
- b 消化成分として、ビオジアスターゼ、デヒドロコール酸が配合される場合がある。
- c 胃粘膜の炎症を和らげる成分として、メチルメチオニンスルホニウムクロライド、グリチルリチン酸二カリウムが配合される場合がある。
- d 消泡成分として、ジメチルポリシロキサンが配合される場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問33】

次の胃腸鎮痛鎮^{けい}痙成分のうち、添付文書で、授乳中の人には「相談すること」とされている成分はどれか。

- 1 臭化メチルベナクチジウム
- 2 臭化ブチルスコポラミン
- 3 塩酸オキシフェンサイクリミン
- 4 臭化メチルオクタトロピン
- 5 塩酸パパベリン

【問34】

胃腸鎮痛鎮痙成分の作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 臭化ブチルスコポラミンは交感神経系に作用し、消化管の運動を抑制する。
- b 臭化ブチルスコポラミンは交感神経系に作用し、胃液の分泌を抑制する。
- c 塩酸ジサイクロミンは副交感神経系に作用し、胃液の分泌を抑制する。
- d 塩酸パパベリンは消化管の平滑筋に直接働き、胃液の分泌を抑制する。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【問35】

次の腸の薬の成分とその作用の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カサントラノール _____ 瀉下成分
- b 次硝酸ビスマス _____ 止瀉成分
- c ピコスルファートナトリウム _____ 瀉下成分
- d ビサコジル _____ 止瀉成分

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

【問36】

駆虫薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と条虫である。
- b 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばない。
- c 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。
- d 駆除した虫体等の排出を促すには、一般的にヒマシ油が使用される。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問37】

高コレステロール改善成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ソイステロールはコレステロールの産生を抑える働きがあるとされる。
- b リノール酸はコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c パンテチンは低密度リポ蛋白質（LDL）の分解を促し、高密度リポ蛋白質（HDL）を増加させる効果を期待して用いられる。
- d ポリエンホスファチジルコリンはコレステロールと結合し、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問38】

貧血（貧血用薬）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 貧血は、その原因により鉄欠乏性貧血、ビタミン欠乏性貧血等に分類される。
- b 亜鉛は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
- c 銅は、赤血球産生に必要な不可欠なビタミンB12の構成成分で、骨髄での造血機能を高める目的で硫酸銅が配合される場合がある。
- d マンガンは、糖質・脂質・蛋白質^{たん}の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で硫酸マンガンが配合される場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問39】

循環器用薬成分であるユビデカレノンに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 肝臓や心臓に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分である。
- b 摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンAとともに働き、別名をコエンザイムQ10とも呼ばれる。
- c 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされている成分である。
- d 重度の心疾患によって起こる、動悸^き、息切れ、むくみの症状に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問40】

強心薬に配合される主な成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、^か嚙んで服用することとされている。
- b ゴオウは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める作用があるとされる。
- c ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- d ロクジョウは、強心作用のほか、強壯、血行促進の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

【問41】

次の表はある外用痔疾用薬に含まれている成分の一覧である。

1個（2.5g）中	
セイヨウトチノミエキス	13mg
酢酸トコフェロール	15mg
リドカイン	50mg
塩酸テトラヒドロゾリン	10mg
タンニン酸	500mg

この外用痔疾用薬に含まれる成分と、期待される効果・作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a セイヨウトチノミエキス — 止血作用
- b 酢酸トコフェロール ——— 末梢血管の血行を改善する効果
- c 塩酸テトラヒドロゾリン — ^{かゆ}痒みを和らげる効果
- d タンニン酸 ————— 粘膜の保護、止血作用

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問42】

ウワウルシに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ウワウルシは、(a)を薬用部位として用いた生薬であり、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、(b)効果を期待して用いられる。

日本薬局方収載のウワウルシは、煎薬として(c)、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。

	a	b	c
1	ツツジ科のクマコケモモの葉	尿路の殺菌消毒	残尿感
2	ツツジ科のクマコケモモの葉	膀胱の弛緩	多尿
3	シソ科のコガネバナの根	膀胱の弛緩	多尿
4	シソ科のコガネバナの根	尿路の殺菌消毒	残尿感
5	サルノコシカケ科のマツホドの菌核	排尿痛を抑える	頻尿

【問43】

次の記述に該当する漢方処方製剤として、正しいものはどれか。

疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渇がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、痒み、排尿困難、頻尿、むくみの症状に適するとされるが、胃腸が弱く下痢をしやすい人、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、胃部不快感、腹痛、のぼせ、動悸等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。また、4歳未満の小児には適用がない。

- 1 猪苓湯 (ちよれいとう) 2 竜胆瀉肝湯 (りゅうたんしゃかんとう) 3 乙字湯 (おつじとう) 4 芎歸膠艾湯 (きゅうきぎょうがいとう)
5 牛車腎気丸 (ごしゃじんきがん)

【問44】

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる漢方製剤のうち、構成生薬としてダイオウを含むものはどれか。

- 1 桃核承気湯 (とうかくじょうきとう) 2 四物湯 (しもつとう) 3 五積散 (ごしゃくさん) 4 当帰芍薬散 (とうきしゃくやくさん) 5 温経湯 (うんけいとう)

【問45】

アレルギー用薬の配合成分には複数の重篤な副作用を生じるものがある。次のアレルギー用薬の配合成分のうち、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害及び血小板減少症を生じることがあるものはどれか。

- 1 マレイン酸カルビノキサミン
- 2 フマル酸クレマスチン
- 3 テオクル酸ジフェニルピラリン
- 4 塩酸トリプロリジン
- 5 メキタジン

【問46】

鼻炎内服薬に配合される塩酸プソイドエフェドリンに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 依存性がある成分であり、長期間に渡って連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
- b 他の同効薬に比べ中枢神経系に対する作用は弱い。
- c 内服薬として摂取された成分は、吸収されて循環血流に入り全身的に作用する。
- d パーキンソン病の治療のため、モノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人は使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問47】

次の記述はきず口の殺菌消毒成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a アクリノールは黄色の色素で、一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対する効果はない。
- b ヨウ素系殺菌消毒成分は、ヨウ素による酸化作用により結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して、殺菌消毒作用を示す。
- c マーキュロクロムは、一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用を示すが、ヨードチンキと混合すると真菌、結核菌、ウイルスに対しても殺菌作用を示す。
- d オキシドールは一般細菌類の一部に対して殺菌作用を示し、その殺菌効果は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化及び発生する酸素の泡立ちによる物理的な洗浄効果であるため、作用の持続性は高く、組織への浸透性も高い。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問48】

次の点眼薬における一般的な注意事項の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 点眼薬の容器に記載されている使用期限は、未開封の状態におけるものであり、容器が開封されてから長期間を経過した製品は、使用を避けることが望ましい。
- 2 点眼薬1滴の薬液の量は、約50 μ Lであるのに対して、結膜囊^{のう}の容積は100 μ L程度とされているので一度に2滴の点眼が必要である。
- 3 アドレナリン作動成分が配合されている点眼薬を、連用又は頻回に使用すると、異常なまぶしさを感じたり、かえって充血を招くことがある。
- 4 通常、ソフトコンタクトレンズは水分を含みやすく、防腐剤(塩化ベンザルコニウム、パラオキシ安息香酸ナトリウム等)などの配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがある。

【問49】

次の点眼薬に配合される成分及びその作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸エフェドリンは、結膜を通っている血管を拡張させて目の充血を除去することを目的として用いられる。
- b イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- c アラントインは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して用いられる。
- d メチル硫酸ネオスチグミンは、アドレナリンを分解する酵素の働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアドレナリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問50】

次の表はある点眼薬に含まれている成分の一覧である。

15mL中	
アズレンスルホン酸ナトリウム	30mg
コンドロイチン硫酸ナトリウム	15mg
マレイン酸クロルフェニラミン	1.5mg
グリチルリチン酸二カリウム	7.5mg

この点眼薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アズレンスルホン酸ナトリウム — 目の痒み^{かゆ}を和らげる
- b コンドロイチン硫酸ナトリウム — 結膜や角膜の乾燥を防ぐ
- c マレイン酸クロルフェニラミン — 目の充血を除去する
- d グリチルリチン酸二カリウム — 比較的緩和な抗炎症作用

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問51】

外皮用薬の剤型と取扱い上の注意の関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塗り薬（軟膏^{こう}剤、クリーム） — 容器から直接指に取り、患部に塗布することをくりかえすと容器内に雑菌が混入するおそれがある。
- b 貼付剤・パップ剤 ———— 患部やその周辺に汗や汚れ等が付着した状態で貼付すると、有効成分の浸透性が向上するほか、剥がれにくくもなるため十分な効果が得られる。
- c 噴霧剤・エアゾール剤 ———— 強い刺激を生じるおそれがあるため、目の周囲や粘膜（口唇等）への使用を避けることとされている。
- d 噴霧剤・エアゾール剤 ———— 同じ部位に連続して噴霧すると、火傷をおこすことがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問52】

外皮用薬に配合される非ステロイド性抗炎症成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ブフェキサマク ———— 湿疹、皮膚炎、かぶれ、日焼け等による皮膚症状の緩和に用いられる。
- b インドメタシン ———— 筋肉痛、関節痛、肩こりに伴う肩の痛み、腰痛、打撲等の痛みの緩和に用いられる。
- c ケトプロフェン ———— 接触性皮膚炎、痒み、かぶれ等の皮膚症状の緩和に用いられる。
- d イブプロフェンピコノール — 腱鞘^{けんしやう}炎、肘の痛み、捻挫^{ねんざ}等の痛みの緩和に用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問53】

にきび、吹き出物、みずむし等の基礎的ケアに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 にきび、吹き出物のケアは、洗顔等により皮膚を清浄に保つことが基本とされる。
- 2 みずむし、たむしは古くから知られている皮膚疾患のひとつであり、様々な民間療法が存在するが、それらの中には科学的根拠が見出されないものも多く、かえって症状を悪化させる場合がある。
- 3 とびひは、毛穴を介さずに虫刺されやあせも、掻き傷などから化膿菌が侵入したもので、小児に発生することが多いが、水疱が破れて分泌液が付着すると皮膚の他の部分や他人の皮膚に広がる場合がある。
- 4 みずむし、たむし等は、アクネ菌の繁殖によって起こる疾患であり、みずむしの場合は、毎日石けんで洗う等して清潔に保ちなるべく通気性をよくしておくことが重要である。

【問54】

口腔内疾患及びその治療薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 歯痛薬は、歯の齶蝕(むし歯)による歯痛を応急的に鎮め、歯の齶蝕を修復する薬である。
- b 内服で用いる歯槽膿漏薬については、同じ又は同種の成分が配合された医薬品(かぜ薬、鎮咳去痰薬、胃腸薬等)が併用された場合、作用が強すぎたり、副作用が現れやすくなるおそれがある。
- c 口内炎は、栄養摂取の偏り、ストレス、口腔内の不衛生などが要因となって生じることが多いとされる。
- d コラーゲン代謝を改善して炎症を起こした歯周組織の修復を助け、また、毛細血管を強化して炎症による腫れや出血を抑える効果を期待して、ビタミンB12が配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問55】

歯や口中に用いる薬に含まれる成分とその期待される作用との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a グリチルリチン酸二カリウム — 局所麻酔作用
- b クレオソート ————— 殺菌消毒作用
- c アミノ安息香酸エチル ————— 抗炎症作用
- d アラントイン ————— 組織修復作用

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問56】

禁煙補助剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 主な副作用として、口内炎、喉^{のど}の痛み、消化器症状、皮膚症状、精神神経症状などが現れることがある。
- b 非喫煙者では、一般にニコチンに対する耐性がないため、吐き気、めまい、腹痛などの症状が現れやすく、誤って使用されることがないように留意する必要がある。
- c ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬、鼻炎用薬、痔疾用薬等）との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。
- d 現在、一般用医薬品として流通している禁煙補助剤は、喫煙をやめることなく喫煙回数を徐々に減らしながら使用することとされている。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |

【問57】

次の記述は滋養強壯保健薬に含まれるビタミンの作用に関するものである。正しい組み合わせはどれか。

- a 体内の脂質を酸化から守り細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- b 腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- c 体内の脂質を酸化から守る作用を示し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。また、メラニンの産生を抑える働きもあるとされる。
- d 夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

	a	b	c	d
1	ビタミンE	ビタミンD	ビタミンB2	ビタミンB6
2	ビタミンB1	ビタミンA	ビタミンC	ビタミンE
3	ビタミンE	ビタミンD	ビタミンC	ビタミンA
4	ビタミンB1	ビタミンE	ビタミンB2	ビタミンB6

【問58】

第1欄の記述は漢方の考え方に関するものであるが、()の中に入れるべき字句は、第2欄のどれか。

第1欄

患者の証に基づく考え方とは、()を虚証と実証に分類し、それに応じて処方を選択する考え方である。

第2欄

- 1 体力 2 症状 3 体質 4 臓器 5 副作用

【問59】

疾病を媒介したり、物を汚染するなどして、保健衛生上の害を及ぼす昆虫等を衛生害虫という。次の1～5のうち衛生害虫はどれか。

- 1 ハチ
- 2 ゴキブリ
- 3 ドクガ
- 4 ドクグモ
- 5 サソリ

【問60】

尿糖・尿蛋白検査薬、妊娠検査薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 尿糖の場合、原則として食前（1～2時間）の尿を検体とし、尿蛋白の場合、原則として寝る前の尿を検体とする。
- 2 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、尿糖・尿蛋白の正確な検査結果が得られなくなることがある。
- 3 妊娠検査薬は、妊娠の早期判定として尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、その結果だけで妊娠を判断することができる。
- 4 正確な尿等の検査のためには出始めの尿ではなく中間尿を採取することが望ましい。

【問 6 1】

消化器系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 唾液は、殺菌・抗菌物質を含んでいないので、口腔粘膜を保護・洗浄・殺菌する作用はない。
- b 胃液中の胃酸は、胃内を強酸性に保って内容物が腐敗や発酵を起こさないようにする役目を果たしている。
- c 肝臓は、生体に有毒な物質の無毒化・代謝を行っており、アミノ酸が分解された時に生成されるアンモニアも肝臓において尿素に代謝される。
- d 通常、糞便の成分の大半は食物の残渣で、そのほか、はがれ落ちた腸壁上皮細胞の残骸（15～20%）や腸内細菌の死骸（10～15%）が含まれ、水分は約5%に過ぎない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

【問 6 2】

消化器系に関する記述について、() の中に入れるべき字句はどれか。

() は、肝臓で産生された胆汁を濃縮して蓄える器官で、十二指腸に内容物が入ってくると収縮して腸管内に胆汁を送り込む。

- 1 食道
- 2 胃
- 3 胆嚢
- 4 膵臓
- 5 盲腸

【問63】

肝臓の働きに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

小腸で吸収された (a) は、血液によって肝臓に運ばれてグリコーゲンとして蓄えられる。

また、皮下組織などに蓄えられた (b) は、肝臓に運ばれてエネルギー源として利用可能な形に代謝される。

	a	b
1	ブドウ糖	たん 蛋白質
2	ブドウ糖	脂質
3	ブドウ糖	炭水化物
4	たん 蛋白質	ブドウ糖
5	たん 蛋白質	脂質

【問64】

血管系に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 血管壁が収縮すると血管は太くなり、拡張すると細くなるが、これは自律神経によって制御される。
- b 動脈は皮膚表面近くを通過している部分が多く、皮膚の上から透けて見える。
- c 四肢の静脈では血流が重力の影響を受けやすいため、静脈弁が発達して逆流を防いでいる。
- d 消化管壁を通過している毛細血管の大部分は、門脈と呼ばれる血管に集まって肝臓に入る。

- 1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

【問65】

血液に関する記述について、()の中に入れるべき字句はどれか。

ヘモグロビンは()と結合した蛋白質で、酸素量の多いところ(肺胞の毛細血管)で酸素分子と結合し、酸素が少なく二酸化炭素が多いところ(末梢組織の毛細血管)で酸素分子を放出する。

- 1 銅分
- 2 マグネシウム分
- 3 カルシウム分
- 4 鉄分
- 5 アルミニウム分

【問66】

呼吸器系に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 呼吸器系は、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺からなる。
- b 気管から気管支、肺までの部分を上気道という。
- c 肺自体には肺を動かす筋組織があるため、自力で膨らんだり縮んだりする。
- d 肺の内部にある肺胞の壁は非常に薄くできていて、周囲を毛細血管が網のように取り囲んでいる。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問67】

泌尿器系に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 男性では、加齢とともに前立腺が肥大し、尿道を圧迫して排尿困難等を生じることがある。
- b 腎臓は血液中の老廃物の除去のほか、水分及び電解質の排出調節を行っており、血圧を一定範囲内に保つ上でも重要な役割を担っている。
- c 副腎皮質では、自律神経系に作用するアドレナリンとノルアドレナリンが産生・分泌される。
- d 女性は尿道が短いため、細菌などが侵入したとき膀胱まで感染を生じやすい。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	誤	正

【問68】

筋組織に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

- (a) は不随意筋であり、比較的弱い力で持続的に収縮する特徴がある。
- (b) は横紋筋とも呼ばれ、随意筋であるが、疲労しやすく長時間の動作は難しい。
- (c) は不随意筋であり、強い収縮力と持久力を兼ね備えている。

	a	b	c
1	骨格筋	平滑筋	心筋
2	平滑筋	骨格筋	心筋
3	心筋	平滑筋	骨格筋
4	骨格筋	心筋	平滑筋
5	心筋	骨格筋	平滑筋

【問69】

耳に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- a 聴覚情報と平衡感覚を感知する器官で、外耳、中耳、内耳からなる。
- b 耳垢（耳あか）は、外耳道にある耳垢腺こうせんや皮脂腺せんからの分泌物ほこりに埃や外耳道上皮の老廃物などが混じったものである。
- c 外耳道を伝わってきた音は、内耳にある鼓膜を振動させる。
- d 中耳は、聴覚器官である前庭と平衡器官である蝸牛かぎゅうからなる。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問70】

外皮系の熱交換に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

平常体温よりも体温が上がり始めると、皮膚を通過している（ a ）に血液がより多く流れるように血管が開き、体外へより多くの熱を排出する。また、汗腺せんから汗を分泌し、その蒸発時の（ b ）を利用して体温を下げる。逆に、体温が下がり始めると血管は（ c ）して、放熱を抑える。

- | | a | b | c |
|---|------|-----|----|
| 1 | 静脈 | 気化熱 | 拡張 |
| 2 | 静脈 | 昇華熱 | 拡張 |
| 3 | 毛細血管 | 昇華熱 | 収縮 |
| 4 | 毛細血管 | 気化熱 | 収縮 |
| 5 | 毛細血管 | 気化熱 | 拡張 |

【問 7 1】

中枢神経系に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 脳は、記憶、情動、意思決定等の働きを行っているが、自律神経系、ホルモン分泌等の調節機能は担っていない。
- 2 小児では血液脳関門が未発達であるため、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳の組織に達しやすい。
- 3 延髄は、脳と末梢の間で刺激を伝えるほか、末梢からの刺激の一部に対して脳を介さずに刺激を返す場合があり、これは延髄反射と呼ばれている。
- 4 脳の重さは体重の20～25%である。

【問 7 2】

交感神経と副交感神経が各効果器におよぼす作用の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	〈効果器〉		〈交感神経系〉		〈副交感神経系〉
a	目	—————	瞳孔収縮	—————	瞳孔散大
b	心臓	—————	心拍数増加	—————	心拍数減少
c	気管支	—————	拡張	—————	狭窄（収縮）
d	末梢血管	—————	収縮	—————	拡張

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

【問 7 3】

薬の代謝、排泄に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 肝臓の機能が低下した状態にある人では、正常な人に比べて循環血液中に医薬品の成分がより多く到達することとなり、効き目が強すぎたり、副作用を生じやすくなる。
- b 循環血液中に移行した医薬品の成分は、未変化体またはその代謝物が脾臓で濾過され、大部分は尿中に排泄される。
- c 消化管で吸収された医薬品の成分は、消化管の毛細血管から血液中に移行する。
- d 医薬品の成分が乳汁中に移行する場合には、代謝を受けないまま乳汁中に移行することが多い。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 7 4】

剤型に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 内用液剤は、予め有効成分が液中に溶けたり、分散したりしているため、服用後比較的速やかに消化管から吸収される点が特長である。
- b カプセル剤のカプセルの原材料として広く用いられているゼラチンは蛋白質であるため、アレルギーを持つ人では使用を避けるなどの注意が必要である。
- c クリーム剤と軟膏剤では、一般的に適用部位を水から遮断する場合はクリーム剤を用いることが多い。
- d 貼付剤は、適用した部位に有効成分が短時間で吸収されるため、薬効の持続が期待できない。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 7 5】

精神神経系に現れる副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を多量服用した場合に限り、精神神経障害が発生する。
- b 全身性エリトマトーデス、関節リウマチなどの基礎疾患がある人は、医薬品の副作用として無菌性髄膜炎^{ずい}を発症するリスクが高い。
- c 医薬品の副作用として無菌性髄膜炎^{ずい}の症状が現れた場合、原因となった医薬品の使用を早期に中止しても、回復は遅く、予後も悪いことがほとんどである。
- d 眠気を生じうる成分が配合された医薬品を使用した後は、乗物の運転などを避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

【問 7 6】

医薬品が原因となって起こるショック（アナフィラキシー）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 発症すると急速に症状が進行してチアノーゼや呼吸困難を生じ、死に至る場合がある。
- b ショックは、医薬品の成分に対する即時型の過敏反応である。
- c 発症してからの進行が2時間以内と速い。
- d 以前に医薬品の成分により蕁麻疹^{じんしん}等のアレルギーを起こした人は、同じ成分の医薬品には耐性ができているため、ショックを起こすリスクが低いとされている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

【問 7 7】

医薬品の服用による副作用について、最も当てはまるものはどれか。

全身の倦怠感、黄疸、発熱、発疹、皮膚の掻痒感、吐き気などの症状が現れた。

- 1 肝機能障害
- 2 偽アルドステロン症
- 3 イレウス様症状
- 4 鬱血性心不全
- 5 間質性肺炎

【問 7 8】

排尿機能や尿に現れる副作用に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 交感神経系を抑制する成分が配合された医薬品の使用によって、膀胱の排尿筋の収縮が抑制される。
- 2 医薬品の副作用による腎臓の障害では、尿が濁ったり、血尿の症状を生じることはない。
- 3 医薬品の副作用により腎臓に障害を起こすと、ほとんど尿が出なくなったり、逆に一時的に尿が増えることがある。
- 4 副交感神経を抑制する成分が配合された医薬品の使用によって、排尿困難や閉尿を起こすことはない。

【問 79】

皮膚に現れる副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 光線過敏症の症状は、医薬品が触れた部分の皮膚のうち太陽光線に曝^{さら}された部分にのみ起こり、正常な皮膚との境目がはっきりしているのが特徴である。
- b 接触皮膚炎の症状は、原因となる医薬品が触れた部分だけでなく、接触した部分の皮膚を中心に全身に広がり、ほとんどの場合は、中毒性表皮壊死症へ進行する。
- c 医薬品の使用により薬疹^{しん}の症状があり、皮膚以外に、特に目や口腔^{くわう}粘膜の異常や発熱を伴う場合は、皮膚粘膜眼症候群へ進行することがある。
- d 医薬品を使用した後に発疹^{しん}・発赤等の症状が現れた場合には、まず薬疹^{しん}の可能性を考慮して、原因と思われる医薬品の使用を中止する必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

【問 80】

医薬品の副作用の症状に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 偽アルドステロン症は、副腎皮質からのアルドステロンが増えることにより生じる。
- b 消化性潰瘍^{かいよう}では、消化管出血に伴って糞便が黒くなるなどの症状を生じる場合がある。
- c イレウス様症状が悪化した場合、腸管内に貯留した消化液が逆流し、激しい嘔吐^{おう}などの症状が現れる。
- d 喘息^{ぜん}は内服薬により誘発され、外用薬により誘発されることはない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 8 1】

薬事法の規定に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬局の許可は厚生労働大臣が、店舗販売業の許可は都道府県知事が、それぞれ与える。
- b 配置販売業者が消費者の居宅に医薬品を予め預けておく行為は、医薬品の陳列に該当する。
- c 薬局及び薬剤師が従事している店舗販売業では、医師が発行した処方せんに基づき調剤することができる。
- d 薬剤師は、配置販売業の区域管理者となることができない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	誤	正

【問 8 2】

次の薬局に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 薬局の管理者は、保健衛生上の支障が生ずるおそれがないように、薬局の開設者に対して必要な意見を述べる義務がある。
- b 調剤を実施する薬局は、医療法の規定により医療提供施設に位置づけられている。
- c 「薬局」の名称は、薬局の開設許可を受けたもの以外は使用してはならない。
- d 薬局で一般用医薬品を販売するときは、店舗販売業の許可を別に受けなければならない。

1 (a、b)	2 (a、d)	3 (b、c)	4 (c、d)
---------	---------	---------	---------

【問 8 3】

次の店舗販売業に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 配置による医薬品の販売を行うことはできない。
- b 申請者が薬事に関する法令に違反し、一定期間を経過していないときには、都道府県知事は店舗販売業の許可を与えてはならない。
- c 医師などの医療従事者に対して、医療用医薬品を販売することができる。
- d 店舗の管理者は薬剤師でなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

【問 8 4】

配置販売業に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 薬剤師によっても第一類医薬品を取扱うことができない。
- 2 第三類医薬品であっても、経年変化が起こりやすいものなど、基準に適合しない医薬品は取扱うことができない。
- 3 住所地の都道府県知事から配置販売業の許可を受けていれば、全国で配置による販売を行うことができる。
- 4 毒薬及び劇薬以外の一般用医薬品であれば、分割販売することができる。

【問 8 5】

薬事法第 5 6 条に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

薬事法第 1 4 条第 1 項の規定による承認を受けた医薬品であって、その成分、分量、(a) がその承認を受けた内容と異なるものや、(b) その他疾病の原因となるものにより汚染され、又は汚染されているおそれがあるものは販売若しくは授与の目的で製造してはならないこととなっている。

	a	b
1	性状又は品質	アレルギー
2	用法又は品質	アレルギー
3	製法又は品質	アレルギー
4	性状又は品質	病原微生物
5	用量又は品質	病原微生物

【問 8 6】

次の薬事法の規定に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 日本薬局方に収められている物は一般用医薬品には配合できない。
- b 疾病の予防に使用されることが目的のものの中に、医薬品に該当するものはない。
- c 動物の疾病の治療に使用されることが目的のものであって、機械器具等でないものは全て医薬品である。
- d 人の身体に直接使用されない物であっても、医薬品に該当するものがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 8 7】

次の文は薬事法第 2 条第 3 項で規定される化粧品の定義の抜粋である。() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

この法律で「化粧品」とは、人の身体を (a) にし、美化し、魅力を増し、容^{ぼう}貌を変え、又は (b) を健やかに保つために、身体に塗擦、散布その他これらに類似する方法で使用されることが目的とされている物で、人体に対する作用が緩和なものをいう。

	a	b
1	清潔	皮膚若しくは毛髪
2	清潔	皮膚若しくは口内
3	健康	皮膚若しくは毛髪
4	健康	皮膚若しくは口内
5	健康	皮膚若しくは爪

【問 8 8】

次の医薬品、医薬部外品及び化粧品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 以前は医薬品であったが、現在は医薬部外品へ移行されたものもある。
- b 人の保健のためにするねずみの防除のために使用される機械器具は、薬事法において医薬部外品と定義されている。
- c 化粧品を製造販売する場合には品目ごとの承認は必要であるが、製造販売業の許可は必要ない。
- d 化粧品に医薬品的な効能効果を表示することは、一切認められていない。

- 1 (a 、 c) 2 (a 、 d) 3 (b 、 c) 4 (b 、 d)

【問 89】

次の医薬品及び食品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 特定保健用食品である旨を表示する食品は、あらかじめ健康増進法に基づく許可を受ける必要がある。
- b 無承認無許可医薬品とみなされた食品は、薬事法に基づく取締りの対象となる。
- c いわゆる健康食品として販売されている製品は、医薬品的な効能効果を表示しても医薬品とはみなされない。
- d 食品とは、医薬品及び医薬部外品以外のすべての飲食物をいう。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	正

【問 90】

次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医療用医薬品に使用されていた有効成分は、一般用医薬品では使用することができない。
- b 医療用医薬品では、患者の状態により服用量を適宜増減することが認められていることが多いが、一般用医薬品では、年齢に応じて服用量が定められているなど、それを使用する一般の生活者による判断の余地は少ない。
- c 注射等の侵襲性の高い使用方法は、一般用医薬品では用いられていない。
- d 店舗販売業は医療用医薬品の販売をすることができず、卸売販売業は一般用医薬品の販売をすることができない。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問 9 1】

毒薬及び劇薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 劇薬の直接の容器には、赤地に白枠をもって、当該医薬品の品名及び「劇」の文字が白字で記載されていなければならない。
- b 劇薬とは、劇性が強いものとして、厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて指定する医薬品をいう。
- c 毒薬を貯蔵する場所については、かぎを施さなければならない。
- d 毒薬は14歳未満の者に交付することはできないが、劇薬は交付に対する年齢制限はない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 9 2】

生物由来製品に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 植物に由来するもののみを原料として製造をされる医薬品の中に生物由来製品はない。
- b 生物由来の原材料を有効成分として用いている医薬品でなければ生物由来製品に指定されない。
- c 生物由来製品の指定は、生物由来の原材料の種類により判断される。
- d 現在のところ、生物由来製品として指定された化粧品はない。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 9 3】

一般用医薬品のリスク区分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の容器等には、リスク区分を示す識別表示を行わなければならない。
- b 第一類医薬品と第二類医薬品を混在して陳列してはならない。
- c 第三類医薬品に分類された医薬品が、第二類医薬品に分類を変更されることはない。
- d 第三類医薬品は、副作用が起こるおそれがない医薬品であり、保健衛生上のリスクはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

【問 9 4】

医薬品の容器・外箱等に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 製造業者の氏名又は名称及び住所を記載しなければならない。
- 2 保健衛生上危険がある用法、用量又は使用期間を記載してはならない。
- 3 日本で製造された医薬品は邦文で、外国で製造された医薬品は英文で法定表示事項を記載しなければならない。
- 4 不正表示医薬品を製造した者は薬事法違反を問われるが、販売した者は薬事法違反を問われない。

【問 9 5】

一般用医薬品の広告に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 チラシに医薬品と食品を併せて掲載すること自体は認められている。
- 2 承認前の医薬品について、名称の広告をすることは認められている。
- 3 承認を受けていない効能について、暗示的に広告することは認められている。
- 4 テレビ会社が制作する医薬品の広告については、薬事法の取締りの対象にならないことになっている。

【問 9 6】

医薬品等適正広告基準に関する次の記述のうち、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の価格をチラシに表示することは認められない。
- b 医薬関係者が推薦している旨の広告については、一般の生活者の当該医薬品に対する認識に与える影響が大きいことにかんがみて、仮に事実であったとしても、原則として不相当とされている。
- c 医薬品と化粧品を同一の紙面に掲載すること自体は認められる。
- d 「いくら飲んでも副作用がない」といった事実と反する広告表現は、虚偽誇大な広告に該当する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	誤

【問 9 7】

次の文は薬事法第 6 6 条第 3 項の全文である。() に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

何人も、医薬品、医薬部外品、化粧品又は医療機器に関して (a) を暗示し、又は (b) にわたる文書又は図画を用いてはならない。

	a	b
1	効能	<small>ひぼう</small> 誹謗
2	効能	わいせつ
3	墮胎	<small>ひぼう</small> 誹謗
4	墮胎	わいせつ
5	墮胎	誇大

【問 98】

医薬品の販売方法等に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a キャラクターグッズをつけて医薬品を販売することは認められている。
- b 医薬品を懸賞の商品とすることは原則として認められていない。
- c 効能が同じ医薬品を組合わせて販売することは適当であるとされている。
- d 風邪薬と体温計をセットにして販売することは認められていない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 99】

薬事法の規定により、都道府県知事が必要があると認めるときに行うことができる命令に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬局の構造設備によって不良医薬品を生じるおそれがある場合には、その構造設備の改善を命令することができる。
- b 店舗管理者について、その者が管理者として不適当であると認めるときは、医薬品販売業者に対して、その変更を命ずることができる。
- c 配置販売業の配置員が、その業務に関し、薬事法又はこれに基づく処分に違反する行為があったときは、その配置販売業者に対して、期間を定めてその配置員による配置販売の業務の停止を命ずることができる。
- d 医薬品を業務上取り扱う者に対し、不良医薬品について、廃棄等の公衆衛生上の危険の発生を防止するに足る措置を採るべきことを命ずることができる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

【問100】

生活者からの苦情及び相談に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 行政庁の薬務主管課には、生活者からの一般用医薬品の販売方法等に関する相談は寄せられていない。
- 2 独立行政法人国民生活センターは、生活者へのアドバイスを行うほか、必要に応じて行政への通報を行っている。
- 3 生活者からの相談は、消費者団体等の民間団体では受け付けられないこととなっている。
- 4 医薬品販売の業界団体においては、一般用医薬品の販売に係る苦情相談窓口を設置しているが、業界内における自主的チェックや自浄的是正を図る取り組みは行われていない。

【問101】

一般用医薬品の適正な使用のために必要な情報（適正使用情報）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 添付文書中の使用上の注意には、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」が記載されている。
- b 一般用医薬品の添付文書に記載されている適正使用情報は、一般の生活者に理解しやすい平易な表現で記載され、開封時に一度目を通せば以後読まなくてもよいので添付文書は保管しておく必要はない。
- c 医薬品は、その適正な使用のために必要な情報がない場合でも、本来の機能を十分発揮する。
- d 一般用医薬品の添付文書に記載されている適正使用情報の内容は一般的・網羅的なものとならざるをえない。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問102】

医薬品の販売等に従事する専門家の役割に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 購入者等からの乳汁中に移行する成分やその作用等についての相談は、診療行為にあたるため説明してはいけない。
- b 医師から処方された薬剤を服用中であることがわかった場合には、一般用医薬品を服用する前に、その薬剤を処方した医師若しくは調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する。
- c 個々の生活者に応じて、添付文書に記載されている内容から必要と思われる事項に焦点を絞り説明をすることが重要である。
- d 一般用医薬品は、使用上の注意の「してはいけないこと」に使用を避けるべきとの記載がなければ、妊婦または妊娠していると思われる人にも自己の判断で使用してもよいことを伝え、不安を和らげるようにする。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問103】

一般用医薬品の添付文書に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 添付文書には「必要なときに読めるよう大切に保存すること」等の文言が記載されている。
- b アレルギーの既往歴、基礎疾患、年齢等からみて重篤な副作用を生じる危険性が特に高い人は、使用を避けるべき人として、生活者が自らの判断で認識できるように記載することとされている。
- c 医療用医薬品と一般用医薬品を併用する場合には、まず効果の緩和な一般用医薬品の使用を優先し、とりあえず医療用医薬品の使用は休止するように記載されている。
- d 定められた用法・用量で効果が認められない場合には、生活者が自らの判断で用量を増やしてもよいことが記載されている。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問104】

第1欄の記述は、アスピリン等の解熱鎮痛薬における使用上の注意の「次の人は使用（服用）しないこと」の記載に関するものである。（ ）の中に入れるべき字句は、第2欄のどれか。

第1欄

本剤または他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を使用（服用）して（ ）を起こしたことがある人

第2欄

- 1 ぜんそく
- 2 横紋筋融解症
- 3 排尿困難
- 4 けいれん
- 5 脱毛

【問105】

医薬品の使用上の注意に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 一般に高齢者では、医薬品による副作用のリスクが低下する傾向にある。
- 2 本人又は家族がアレルギー体質の人では、一般にアレルギー性の副作用を生じるリスクが高い。
- 3 一般用医薬品は、自己判断で使用しても、症状の悪化や副作用が生じることはない。
- 4 ある医薬品を一定期間使用した後に症状の改善がみられない場合には、さらに長期間、その医薬品を使用し続ける必要がある。

【問106】

次の1～5で示される成分のうち、それが含まれる医薬品の添付文書の「成分及び分量」の欄に、尿が黄色に着色することがある旨の注意が記載されているものはどれか。

- 1 フマル酸第一鉄
- 2 塩酸メチルエフェドリン
- 3 塩酸ジフェンヒドラミン
- 4 ビタミンB2
- 5 臭化ブチルスコポラミン

【問107】

次の1～5で示される成分のうち、その成分が主として含まれる医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の欄に、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人は服用しないように記載されているものはどれか。

- 1 タンニン酸アルブミン
- 2 塩化リゾチーム
- 3 イブプロフェン
- 4 ラニチジン
- 5 エテンザミド

【問108】

添付文書中の「保管及び取扱い上の注意」欄に記載される注意事項に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 他の容器に入れ替えないこと。
- 2 授乳中の人には本剤を使用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること。
- 3 使用にあたっては添付文書をよく読むこと。
- 4 長期連用しないこと。
- 5 服用時は飲酒しないこと。

【問109】

第1欄の記述は医薬品の使用上の注意の記載に関するものである。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

医薬品の使用上の注意等において「小児」とは、およその目安として、()を指すものとされている。

第2欄

- 1 4歳未満
- 2 7歳未満
- 3 12歳未満
- 4 15歳未満
- 5 18歳未満

【問 1 1 0】

次の添付文書の記載項目と記載内容との関係について、正しい組み合わせはどれか。

項目	内容
1 使用上の注意	——小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。
2 使用上の注意	——小児の手の届かないところに保管してください。
3 保管及び取扱い上の注意	——使用期限を過ぎた製品は使用しないでください。
4 保管及び取扱い上の注意	——服用時は飲酒しないこと。

【問 1 1 1】

製品表示に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の添付文書や外箱等には、(a) に該当する医薬品における表示や、その一般用医薬品が分類された (b) 区分を示す識別表示等の法定表示事項のほかにも、購入者等における適切な医薬品の選択、適正な使用に資する様々な情報が記載されている。例えば、エアゾール製品では高圧ガス保安法に基づいた注意事項として、使用ガスの名称や (c) などの注意事項が記載されている。

	a	b	c
1	毒薬又は劇薬	リスク	「高温に注意」
2	毒薬又は劇薬	薬理作用	「高温に注意」
3	毒薬又は劇薬	リスク	「火気厳禁」
4	毒物又は劇物	薬理作用	「火気厳禁」
5	毒物又は劇物	リスク	「高温に注意」

【問 1 1 2】

「緊急安全性情報」に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「緊急安全性情報」は、重大な副作用など緊急な連絡を要する副作用情報を、厚生労働省の指示により製薬企業等が医薬関係者に対して、4週間以内に原則として直接配布し、伝達するものである。
- b 「緊急安全性情報」は、A4サイズの黄色地の紙に印刷され、「ドクターレター」と呼ばれることがある。
- c 「緊急安全性情報」は、医療用医薬品のみが対象で、一般用医薬品は対象とされない。
- d 「緊急安全性情報」は、医薬品医療機器総合機構のホームページで閲覧することができる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【問 1 1 3】

第1欄の記述は医薬品等情報源に関するものである。第1欄の記述に該当する医薬品等情報源として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

医薬品（一般用医薬品を含む）、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報を原則、毎月とりまとめ厚生労働省が発行する医薬関係者向けの医薬品等情報源である。医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」へも掲載されるとともに、医学・薬学関係の専門誌等にも転載される。

第2欄

- 1 医薬品等安全対策情報
- 2 医薬品・医療機器等安全性情報
- 3 医薬品等製品情報概要
- 4 副作用通信
- 5 医薬品改訂情報

【問 1 1 4】

医薬品情報提供に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の製造販売業者による医薬品販売業者への医薬品適正使用情報の提供は、医薬品の製造販売業者の重要な使命ではあるが、法規上の規定はない。
- b 情報通信技術の発展・普及により、一般の生活者でも容易に医薬品情報を入手することが可能なため、登録販売者から購入者への医薬品情報提供は必要ない。
- c 医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して科学的な根拠に基づいた正確なアドバイスを与え、セルフメディケーションを適切に支援することが期待されている。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して、適切な情報提供を行うために積極的に情報収集に努めることが求められている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	正

【問 1 1 5】

副作用の報告に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

登録販売者を含む医薬関係者は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を()に報告しなければならない。

- 1 厚生労働大臣
- 2 都道府県知事
- 3 市町村長
- 4 保健所長
- 5 警察署長

【問 1 1 6】

「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度」に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 因果関係が必ずしも明確でない場合であっても報告の対象となり得る。
- b 副作用の症状が、その医薬品による治療対象となる症状と見分けがつきにくい場合であっても、安易に報告の対象から除外してはならない。
- c 死亡例は報告の対象にはならない。
- d 医薬品の誤用による健康被害は報告の対象とはならない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問 1 1 7】

「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度」に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 副作用の報告の期限は、医薬品の販売等に従事する専門家が事態を把握してから3ヶ月以内とされている。
- b 副作用の報告は、報告様式の記入欄すべてに記入する必要がある。
- c 副作用の報告の必要性を認めた場合においては、適宜速やかに報告書を厚生労働省に送付することとされている。
- d 報告書の送付は、郵送又はFAXによるほか、「厚生労働省電子申請・届出システム」を利用して電子的に行うことができる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 1 1 8】

医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」に掲載されている項目として誤っているものはどれか。

- 1 新医薬品の承認情報
- 2 製品回収に関する情報
- 3 「使用上の注意」の改訂情報
- 4 包装変更に関する情報
- 5 添付文書情報

【問 1 1 9】

塩酸フェニルプロパノールアミン（P P A）含有医薬品の安全対策に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 2000年5月米国において、女性が食欲抑制剤として使用した場合に、出血性脳卒中の発生リスクが高くなるとの報告があり、米国食品医薬品庁（F D A）より米国内におけるP P A含有医薬品の自主的な販売中止が要請された。
- b 日本では、食欲抑制剤として承認されていないことなどから、P P A含有医薬品に関して2000年11月、直ちに販売を中止する必要はないものと判断し、注意喚起は行わなかった。
- c P P Aが配合された一般用医薬品による脳出血などの副作用症例が報告され、それらの多くが用法・用量の範囲を超えた使用又は禁忌とされている高脂血症患者の使用によるものであった。
- d 日本では、脳出血などの副作用が発生したため、2003年8月、厚生労働省より関係製薬企業等に対して代替成分として塩酸プソイドエフェドリン（P S E）等への速やかな切り替えが指示された。

1（a、c） 2（a、d） 3（b、c） 4（b、d）

【問 1 2 0】

医薬品副作用被害救済制度に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度は、医薬品を適正に使用したにも関わらず、副作用によって一定程度以上の健康被害が生じた場合に、医療費等の諸給付を行うものである。
- b 救済給付の対象となるには、添付文書や外箱等に記載されている用法・用量使用上の注意に従って使用されていることが基本となる。
- c 製品の不良による問題や無承認無許可医薬品の使用による健康被害についても救済制度の対象となる。
- d 医療用医薬品・一般用医薬品を含めすべての医薬品での副作用によって、一定程度以上の健康被害が生じた場合には、救済制度の対象となる。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）